

「研修会等名称」

大学生はどこで育っている？～学修を超えた学びと成長～

場所：桐蔭横浜大学

期間：6月7日（土）・8日（日）

1. 研修の内容

本報告は、去る6月7日（土）と8日（日）の両日に桐蔭横浜大学で開催されました、大学教育学会第47回大会への参加に基づくものです。

本大会は「大学生はどこで育っている？～学修を超えた学びと成長～」を統一テーマとして掲げており、今日の大学教育における重要な課題が提示されました。

開催趣旨 大会の趣旨としては、日本の大学進学率が57.7%を超える現代において、大学が社会を機能的に支える人材育成の重要な役割を担っていることが強調されました。単なる専門知識だけでなく、高い汎用的能力を持ち、知識を応用・運用できる人材が社会から求められている現状を踏まえ、大学は専門教育に加えて、キャンパス全体の資源を最大限に活用し、学生の学びと成長の場を創出する必要性が訴えられました。学問の「縦の学び」と、キャンパス全体の「横の学び」をいかにデザインしていくかについて、参加者と共に考える機会を提供することを目的としていました。

主なプログラム概要 基調講演では、日本バドミントン協会会長であり、第5代日本プロサッカーリーグ理事長を務められた村井満氏が登壇され、「社会で活躍する人材が持つ資質・能力と、大学教育のつながり、あるいはねじれ」についてご講演いただきました。続くシンポジウムには、村井氏に加え、島根県教育魅力化特命官および地域・教育魅力化プラットフォーム代表理事の岩本悠氏をお迎えし、高校と大学の接続に関する議論が展開されました。人材育成という観点から、高校、大学、そして社会との接続を深く考える機会となりました。

本研修（大会参加）を通じて、現代の大学教育が直面する課題と、学生の全人的な成長を促すための多角的なアプローチについて、理解を深めることができました。

2. 研修の成果

本学会では、「高等教育における生成 AI 導入の変化」と題されたセッションに参加いたしました。このセッションでは、今日の社会情勢において大学教育にも変革をもたらし、最も注目されているテーマの一つである生成 AI の導入に焦点を当て、人文学、医療、工学、学習支援の各分野の研究者から多角的な報告が行われました。

これらの報告を通じて、生成 AI の教育現場への導入にあたっては、一般に以下の 3 種類のアプローチが考えられることが示されました。

1. ChatGPT 等の汎用システム
2. 特化型外部サービスの利用
3. 独自システムの開発

各アプローチにおいては、ハルシネーション (AI の誤情報生成) といった生成 AI 特有の課題に加え、学習目標の再検討、デジタル・ディバイドを踏まえたインフラ整備、教員間の連携強化など、教育機関固有の課題にも対処する必要があることが指摘されました。さらに、生成 AI システムの利用料に関する持続的な支出や、技術の急速な進展への継続的な対応も大きな課題として挙げられました。

その一方で、新潟大学からの生成 AI システムに関する報告は、非常に示唆に富むものでした。大学の新生が履修科目の登録に際して困難を抱えることが多い現状において、生成 AI システムを活用し、本人の関心分野を入力するだけで、適切な履修科目のモデルを複数提案してくれるため、学生の履修選択に有効であるとの具体的な事例が紹介されました。これは、今後本学においても参考にすべき先進的な取り組みであると認識いたしました。しかしながら、学習能力の向上において生成 AI の導入が実際にどの程度良い影響をもたらしているかについては、まだ検証が不十分であるとの見解が示されました。この点に関し、今後も継続的な研究の必要性を強く認識しました。

3. 授業への研修成果の反映状況

今回の学会報告を通じて、生成 AI を大学教育に本格的に導入するためには、膨大な財政的資源の確保をはじめ、専門人材の継続的な投入が必要であることが明らかになりました。一方で、生成 AI の利用が学習効果の向上にどの程度寄与するのかについては、まだ検証が不十分であり、今後の研究動向を注視する必要があるという印象を受けました。

こうした課題を認識しつつも、教育の効率化と学生の学習支援の観点から、以下の 2 点について授業への試行的な導入を検討したいと考えております。

1. 新生の履修指導における活用: 授業選択に苦慮する新生に対し、生成 AI を活用して自身の関心分野に基づいた履修科目のモデルを提示し、授業選択の一助とすることを提案します。
2. 授業内容の復習への活用: 授業後、個々の学生が理解できなかった基本的な定義や概念を調べる際に、生成 AI の利用を促します。その際、ハルシネーションがあることを明確に伝え、複数の情報源との照合を徹底するよう指導します。

学習・教育支援 センター委員長	名古屋教務課長	係